



WASEDA ROPE

## 平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業 推進校実施報告書

- 1 学校名 : 天草市立本渡中学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 23 日 (木)
- 3 対象 : 2 年生 (262 名)
- 4 派遣オリンピック : 秋山 エリカさん (新体操 ロサンゼルス・ソウルオリンピック出場)
- 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 2 月 23 日 (木) に、天草市立本渡中学校にて、2 年生 262 名を対象とし、ロサンゼルス (1984 年)・ソウル (1988 年) オリンピックに新体操競技の代表として出場された秋山エリカさんをお招きし、ご講演いただきました。

講演では、「新体操に学ぶ」というテーマで、幼少期に運動が大の苦手であった秋山さんが、新体操競技でオリンピックに出場するまでの過程や、その際に学んだことなどについてお話しされました。

はじめに、秋山さんによる新体操の模範演技がなされました。秋山さんは、新体操の種目である、ロープ、フープ、クラブ、ボール、リボンを順に披露されました。初めて新体操の演技を生でみる生徒たちからは、大きな歓声があがりました。

模範演技の後には、秋山さんがオリンピックに出場するまでのエピソードについてお話しされました。秋山さんは、幼少期に、怪我のリハビリを兼ねてバレエを習い始め、中学時代からは器械体操にも取り組むようになり、高校入学後、器械体操から新体操に転向したといえます。

高校時代の秋山さんは、何度も新体操をやめたいと思いつつも、指導者に「やめたい」と言い出せずに、大会に出場するようになったといえます。そして、出場した大会では、何度も失敗を繰り返し、「ミス秋山」というニックネームを付けられていたようです。さらに新体操が嫌いになっていった秋山さんは、高校 3 年の最後の大会でノーミスの演技をして、競技を引退しようと考えていたそうです。結局、最後の大会では、フープを観客席に投げてしまい、大失敗に終わってしまったといえます。

しかし、秋山さんは、この大失敗によって、一度で良いからノーミスの演技がしたい、と強く思ったそうです。そこで、秋山さんは、東京女子体育大学入学後にも新体操を続けることになったといえます。そして、大学 1 年のとき、幼少期に習っていたバレエで身につけた美しい動きが評価されて、130 名中 6 名しか選ばれないレギュラーの座を獲得し、その後出場した競技会で、初めてノーミスで演技を終え、結果、秋山さんは、無名の選手でありながらも優勝したそうです。この優勝を機に秋山さんは日本代表に選ばれ、オリンピックへの出場を果たしたといえます。これらの経験から、「失敗」は、普通は嫌なことであるけれど、長い目で見ると良いこともある、ということに気づいたといえます。そして、「失敗」することを恐れず、気にせず、むしろ「失敗」に感謝することでより大きな成功をつかめるのではないかとお話しされました。

事後アンケートに記入された生徒たちの自由記述からは、「失敗」を恐れずに挑戦することの大切さについて学び取った様子が窺えました。

6 授業の様子



講演する秋山さん



ロープの演技披露



フープの演技披露



クラブの演技披露



ボールの演技披露



リボンの演技披露



生徒代表によるお礼の言葉



集合写真